

◆ 研究分野	・病態検査学
◆ キーワード	・統合失調症 ・うつ病 ・多型解析 ・血漿タンパク質異常 ・インターロイキン
◆ 産業界での応用の可能性等	・気分障害等の簡易試験薬の開発
◆ 共同研究・受託研究可能なテーマ	・血漿異常タンパク質の検出・定量
◆ 利用可能な設備・機器等(共用機器も可)	・電気泳動装置 ・脳波計 ・心電計 ・唾液アミラーゼモニター ・脳機能イメージング(NIRS)
◆ 関連の知的財産等	
◆ 所属学会	・日本電気泳動学会 ・日本超音波検査学会 ・日本臨床衛生検査技師会 ・神奈川県臨床衛生検査技師会 ・日本アルコール・薬物医学会

研究紹介（概要）

精神疾患における神経伝達物質関連遺伝子の多型解析および血清タンパク質異常に関する研究

現在、統合失調症やうつ病などの精神疾患は主に問診や心理検査、症状評価法などの結果によりその診断が行われており、より客観的な、生理学的検査や血清・免疫学的検査など、いわゆる臨床検査のデータが利用されることは少ない。これは、この疾患の原因が未だ特定されず、その臨床症状も多岐にわたるため、疾患と臨床検査データの解析が不十分なためである。しかしながら、近年では徐々にではあるが、統合失調症患者やうつ病の患者における急性期タンパク質やサイトカイン、白血球表面抗原などの動態解析が進んできた。また神経伝達物質やその受容体などの遺伝子変異とこの疾患との研究成果は既に蓄積されつつあり、個々の患者における特定の遺伝子型変異を踏まえた、これら血清・免疫学検査のデータ解析が可能となりつつある。精神科領域の疾患においても、より客観的な診断が必要であり、この研究を推進することにより、診断の補助となりえる検査法や気分障

害の程度を簡便に知ることのできる簡易キットの開発を目指している。

社会、産業界へのPR

タンパク質異常の他に、神経伝達物質関連遺伝子の多型解析や性格テスト・スコアの関連性を調べている。このように一つの視点にとらわれず、多方面から精神疾患に関する客観的基礎データの解析を進めている。

職名	准教授		
氏名	吉原 英児		
ローマ字	YOSHIHARA Eiji	学位	博士(学術)
所属学部等	生命・環境科学部	所属学科等	臨床検査技術学科
所属研究室等	生理学研究室	URL	http://www.azabu-u.ac.jp/lab/lm_01.html